

第3回宝塚市議会意見交換会記録 第3部

※ この記録は、市民発言者と議員の意見交換の様子について、書記として参加した議員が記録したものを元に作成しています。

テーマ「宝塚の環境とごみ行政について」

- 市民 宝塚市再生可能エネルギー推進審議会委員もしていた。
新ごみ処理施設整備基本構想には概ね賛成である。大切なのは循環型まちづくりで、「出さない」「利用」「処理」が問題である。
現在の炉は1988年から2023年で35年間使用することになるが、寿命としては長くはない。新施設の寿命はもっと長くなるはずだ。
旧施設をどのように利活用するかも考える必要がある。
基本構想の方針5に環境学習があるが、先行事例を参考にして学べる施設としてほしい。
地中熱も考慮に入れどう利用するかも検討が必要だと思う。熱回収についても考えていただきたい。
緑のリサイクルセンターは宝塚市の特徴的な施設であり、一つの個性である。
新施設の整備用地選定には、客観性、妥当性、公平性が求められる。選定プロセスの情報公開をしていただきたい。2016年度中に用地が決まらなかった場合、計画はどうなるのか。
- 議員 施設の寿命35年はごみの質にもよるが、宝塚市はごみの分別が進んでいるのでよくもっている。構造上の問題もあるが、ストーカー炉は延命ができない。
候補地も決まっていない中、選定に時間を要するので早く議論を始めないといけない。用地の選定は1年では決まらないかもしれない。都市部に整備すれば廃熱利用で温浴施設に利用したり、発電することもできる。川西市の熔融炉は数千万円の収益を生んでいる。
- 市民 施設がどれくらいもつかは精査が必要だ。35年の寿命はプラントによるのだろう。その後は単なる解体撤去ではなく、利用するのが循環型社会だ。しかし行政にはできないのではないか。過去を振り返って未来を考えることでまちの魅力を引き上げることができる。循環型社会とはごみを出さないこと。いかにごみを減らすかがポイントである。
まち全体を考えて用地選定しなくてはならない。用地を決めてから何ができるか考えるべきだと思う。

議員 今回の建て替えはチャンスである。お金のかかる事業には市民の理解が必要なので、情報やプロセスを公開すべきだと思う。

個人的にはごみ処理は広域で行ったほうがよいと思うが、基本構想は広域ではなく1市になった。基本構想を踏まえて進めていければいいと思う。

市民 時代にあった施設を作ってほしい。

旧施設はどうするのか。旧施設の汚染状況を調べるべきではないか。札幌では、かつてごみ処理場であった場所を、2005年にイサム・ノグチ計画のモエレ沼公園として公園化した。人間が傷つけた土地をアートで再生させている。香川県の豊島や直島は産廃の島であったが再生を遂げた。

過去から現在、未来へと継承するのがよいまちである。NTN株式会社宝塚製作所跡地や宝塚ガーデンフィールズ跡地など過去の歴史との関係のあるまちづくりをしていただきたい。公共施設を現代を象徴するものとして、記憶にとどめるようにしてほしい。

議員 情報をオープンにし、発信することで市民の理解を得ることができるのではないかと思う。

市民 環境問題に取り組んでいる。

宝塚市第5次総合計画の委員として、環境と防災に参加したが、宝塚市の行政が縦割りになっていることで壁ができていると感じている。

市民が一生懸命取り組んでいても、担当課が違っていると進まないということもある。

協働という言葉をよく聞くようになったが、市民との協働だけでなく、市役所内の各部署の協働を行えば無駄が省けるのではないか。

温暖化の問題は、すでに崖っぷちまできており、COP21で話し合われたことは、私たちが市民レベルで真剣に取り組まなくてはならないところまできている。たとえばごみの削減について、生ごみを何気なく燃やすごみに出しているが、水分が多いと燃えにくい。しかしその生ごみも分別の方法によってはエネルギー源として有効利用することもできる。ただしそれは市役所の各部各課をまたいだ取り組みを進める必要がある。木片チップを木質ボイラーの燃料として、モデル事業で高齢者施設などで活用したり、液肥を作って農業に利用するなど、小さなところから取り組む必要がある。自然環境の変化で自然災害が増加している。宝塚市でも洪水や干ばつで農業ができなくなる可能性はある。自然災害と環境の変化を結びつきの理解を深める取り組みを進めることも必要ではないか。

議員 全体的にその意見に賛成である。行政の縦割りは市民からよく聞く。議会での質問の際にも分野ごとに所管課が違うということを感じており、部局間の連携が必要だと思う。環境部門と農政部門が協働し、ごみの堆肥化ができれば環境によいと思う。

政府の取り組みも甘いと思う。原子力発電所の再稼働や石炭火力発電所を始動しようとした。地球温暖化や原発の問題などについては、しっかりと発言する必要がある。市民が進めることには協力したい。

市民 市民はがんばっている。市や議会ももっと一緒に考えてほしい。職員の異動が部局間の連携に有利な場合もあるが、三、四年での人事異動で慣れたところに担当がかわると進まなくなるので、人事体制も考えてほしい。

議員 光ガ丘中学校では給食残量ゼロに取り組んでいる。堆肥にして花壇に利用している学校もある。

市民 各家庭で調理の際に出たごみを集めて再利用すると環境教育にもなる。朝校門で生ごみを集め、容器は自分で洗って持って帰る。集めた生ごみで液肥などを作り、農家で使ってもらうこともできる。地域と連携して行えばよいのではないか。

議員 職員はスペシャリストで、議員はつなぐ役目である。今まで、課題解決はプロジェクトチームで対処してきたが、環境問題は個人の意識を高める教育が肝要だと思う。市役所も一つの方向を見て、縦割りを防止するような体制づくりをしなければならぬ。

市民 行政で生ごみ処理のシステムを構築してほしい。市民はがんばっている。今、市議会議員の皆さんからがんばれと応援していただいた。全分野で取り組めるよう環境学習を進めていく。

市民 市議会議員が市民の代表であるという思いで話をしたい。

環境に関しては、市民も一生懸命取り組まないといけないが、行政にもがんばってもらう必要がある。そのためには行政の縦割りを排除しなければならない。各部各課の中心にエネルギーがあると考えている。

新エネルギーに取り組んでいる市民の声を上げるため、行政の縦割りはやめてほしい。

エネルギーの問題に取り組んでいるすみれ発電所等に、将来的な問題もあるので話を聞きにきてほしい。市内の業者にもヒアリングを行っていただきたい。

再生可能エネルギー審議会について、エネルギービジョン2050に基づき、2050年までに電気、熱利用も含め自家発電で100%を達成するためにはもっと話し合いをする必要がある。特に地中熱利用について取り組んでいただきたい。

水をつくるのもエネルギーを使うので、省エネのため井戸の利用も進めてほしい。また、枯れた井戸も地中熱利用などに活用してほしい。

太陽光発電などにはお金がかかる。補助金ではなく県のように無利子で貸し付けることはできないか。

電力自由化に向けて宝塚市でも新電力をつくれないうか。自治体で電力をつくれれば、災害に強いまちづくりができ、温暖化対策にもなる。地域で経済をまわすこともできる。自然環境も残していける。西谷の広い土地があるのだから、大規模な発電もできるのではないか。

議員 再生可能エネルギーについては、宝塚市の弱みを生かすことが大事だと考える。本市の弱みである、高速道路の渋滞を利用して、道路の下にマットを敷いて発電をするなど、いろいろ考えてチャレンジしていきたい。行政の縦割りはなくしていきたいと思う。電力自由化についても、各課個別の契約ではスケールメリットが出ない。まとめて契約すればいいと思う。

市民 宝塚市にはお金がないので、他者と協力して行えばよい。高速道路の話から、甲子園球場などの飛び跳ねるエネルギーも使えると思った。フランスでは道路に太陽光パネルを貼って社会実験をしている。壁に貼るなどいろいろ考えられるのではないか。

議員 西谷の自然を生かしてできないか考えていきたい。太陽光だけでなく、風力やバイオマスなどいろいろ考えられるのではないか。今後も一緒に考えていきたいと思う。

市民 エネルギーの問題は全体的な問題である。温暖化やエネルギー問題は、各議員同じように危機感を抱いていると思うので一緒に考えていきたいと思う。

議員 さまざまなエネルギーをミックスして取り組んでいくことが大事だと考える。

市民 地域猫活動をしている。

主な活動は、市の助成金を活用し、糞尿被害等を防ぐために去勢手術を行っている。多くの人に助成制度があることを知ってもらいたいと思う。

野良猫にえさをやるのが迷惑だと思う人が多い。えさの残りが環境被害となっているためにそうなるのだが、えさをやることは違法ではない。えさのやり方に問題があり、ちゃんと片付けないと環境被害となり、夏場などは害虫問題にもつながる。

年間130万円の助成があるが、平成27年度は7月には助成金がなくなった。

助成金がなくなれば、現状では自己負担で去勢を行っている人もおり、平均1万円の手術料で年間20万円ほど負担している人もいる。

いまだに、野良猫にえさをやるのは迷惑だというフレーズが並んでおり、言われなき誤解を受けている人も多い。回覧板などで、野良猫の被害を減らすためのルールを周知し、共通認識をもてるようにしてほしい。宝塚市は助成金が少なく3カ月でなくなるので、ふるさと納税の記念品に猫の去勢手術ができるというメニューを付け加えてほしい。

議員 地元で猫が車にひかれてかわいそうという話を聞くこともある。地域猫活動の普及をしたが、地元ではなかなか賛同者はいなかった。かわいそうだから、捕獲して飼い猫にする方もいる。猫を育てながら減らしていく方法はよいと思う。まちづくり協議会等にも話をして、適切なルールをつくれればできるのではないかと思う。中山台では、災害時等のペットの避難問題も課題になっているので、そのような議論の場で話をしていくことで周知できていくのではないかと思う。

市民 現在はマイナスからの出発であり、無責任な人に迷惑している。しっかりとした広報をお願いしたい。

議員 この問題の根本はまちづくりである。10年ほど前に、自治会から「猫がふえて困っている」との声があり、請願を出し、予算がつくようになった。

それまでは、バザーや廃品回収または自己負担で去勢手術を行っていた。そういう人はえさをやり、後片付けをしていたが、そうでない人がただえさをやるということをしてきた。

これは教育問題でもある。子どもに生命というものを教えられるし、簡単に保健所に連れて行くということもなくなる。

去勢をすると、尿が臭くなくなるので、糞尿被害も減ってくる。

市で費用対効果を検証していきたい。地域猫活動として最後まで面倒見れるの

かという部分も地域に対して徹底していきたい。

市民　　すべての方から認識されるのは難しいが、周知徹底し、正しい知識を教えることによって、安易にえさを与えてしまったというような人を正しい方向に導くことができる。今後も活動を続け、野良猫の被害で困っている人の力になりたい。